

【中学校部門 優秀賞】

みんなと食べる楽しさ

奈良市立平城中学校 1年 中川 斗羽

僕は生まれつき体が小さかったそうです。赤ちゃんのころからご飯を食べなくて食事をしても口にためて二時間かかっていたと母から聞きました。両親や祖母はとても困っていたと言っていました。母は栄養相談を受けた時「食に興味が無い子もいるからね。」と言われたそうです。母は何とかなしようと考え、集団で友達といっしょに食事をしたら食べてくれるかと思い、保育園に入れました。保育園に入って少しずつ食べれるようになり、小学校高学年の時からおかわりもするようになり、たくさん食べれるようになりました。

自分では覚えてはいませんが、保育園に入って友達が食べているのを見て自分も食べようと思っていたと思われます。周りの人と一緒に食べていくと食事が楽しくなりどんどん食べれるようになってたと思います。保育園では畑で野菜を作り、収穫する楽しさを知ることができました。また、収穫した野菜を使ってふた汁などを作って、作ってくれる人のありがたみを知りました。

今、世の中では核家族が進み、両親が共働きで小さな子供が一人でご飯を食べることが増え、こ食という問題になっているそうです。しかしそういう子供を助け、多くテレビやニュースで報じられたことで動きが活発化し、こ食を解決していこうとしています。

僕は中学校で給食をできるかぎり食べています。僕には好き嫌いが二つあり、一つ目は給食で一番嫌いなちくわです。においや食感、味が嫌いです。二つ目はカニカマです。カニはとても好きなのですが、カニカマも食感が苦手です。本当は克服したいのですがいつも残してしまい申し訳ない気持ちになります。

みんなと一緒に食事をするのはとても楽しくて、いつもご飯を作ってくれる人には感謝しています。そして食事をする時に心がけていることは残さずに食べ、最後に感謝をこめて食べ終わることです。